



募金に感謝

子供たちに夢を



東京川西会々長
森田 光雄
(大塚)

新年明けましておめでとうござい
ます。会員の皆様には、例年とは少
し違う新年を迎えた方もおられるか
と思います。私も実家に帰らずに東
京で新年を迎えました。

昨年は、1月に東京地区行事「七
福神巡り」を行いました。その後
新型コロナウイルスの影響で、定期総会や芋
煮会など予定していた行事がすべて
中止になり、会として何もできない
1年間でした。今年こそ早期にコロ
ナが終息し、従来通りの活動ができ
ることを切に祈っています。

私の高校時代の同級生が神楽坂で
飲食店をやっていました。コロナ
の影響で昨年十月に閉店しました。
元ジャイアントの松井選手が、後楽
園球場での試合が終わった後、毎回
食事をしていたとして、テレビなど

でも紹介された店です。
私にとって、中学
校・高校の同級会や職
場の仲間との懇親会な
どで、気軽に遠慮する
ことなく使わせていた

だいた店なので、非常に残念な思
い。改めてコロナの影響の大き
さを身近に感じました。

新庁舎落成に係る募金については
67名の多数の皆様方からご芳志を
頂戴しました。町から新庁舎は3月
末完成、5月頃に引越しと伺って
います。寄付金の使途ですが、役員
の皆様の見解を伺い、現在町関係者
と協議中ですが、いわゆる従来型の
記念樹等ではなく、町民の皆様
に直接感じていただけるよう、庁舎内
に設置される将来の川西町を背負
ってゆく幼児・子供の待合室に必要
な遊戯類等の購入費用に充てること
で調整しています。ご理解をお願い
し協力に改めて感謝申し上げます。

今年も、川西町と連携を取りなが
ら、関東地区における川西町の応援
部隊として明るく楽しい会運営に努
めてまいりますので、各種行事への
参加などなお一層のご協力をお願い
します。

結びに、今年一年が皆様にとりま
して健康で充実した素晴らしい年
になりますようお願い申し上げます。

新年の幕開けとともに



川西町長
原田 俊二
(中郡)

新年あけましておめでとうござい
ます。皆様には健やかな新年をお迎
えのこととお喜び申し上げます。旧
年中は、ふるさと川西へ温かなご支
援を賜りありがとうございました。

昨年は流行語大賞を賑わせた通り、
世界中が「新型コロナウイルス」の脅威にさ
らされた一年でありました。東京オ
リンピック・パラリンピックの延期
を始め、通年行事やイベントが軒並
み中止に追い込まれ社会生活は大混
乱しました。正に戦争状態の非常事
態に遭遇しました。川西会の総会、
秋の芋煮会の中止は本当に残念でし
た。人と人との絆を大切にすると本
会にとって、「密になるな」「行動の自
粛」は組織の意義が問われる日々だ
ったと思います。そのような中、森
田会長を中心に役員の皆様が力を
合わせ、定期的に会報を発行、会員
との絆をしっかりと守ってこられたこ
とに敬意を申し上げます。「明けな
い夜はない」とよく言われますが、
コロナ禍も私たち人間は必ず乗り越
えられますのでもうしばらく我慢し
ていきましよう。

山形の方も同じように新型コロナ

対応に追われましたが、感染状況が
比較的落ち着いていたこともあり感
染予防に努め過ぎてまいりました。
町の大きなプロジェクトである新庁
舎整備、大塚地区のメディカルタウ
ン整備、現役場庁舎の跡地利用計画
策定など事業は予定通り進んでいま
す。特に新庁舎はいよいよ今月建設
工事が完了し来月引き渡されます。
外構工事が3月一杯かかりますが、
引越しの準備が始まります。現在
5月のオープンに向け最後の詰めを
急いでいるところです。新庁舎は明
るい雰囲気、眺望もよく、外から
見られた方が「ホテルのようだ」と
話していましたが、町のランドマー
クとして町民に愛される役場になっ
てほしいと思います。

さて皆さんにとって今年ほどのよ
うな年になるでしょうか。干支の「辛
丑(かのとうし)」は変化が生まれる状
態、新たな生命がぎざし始める状
態を示し、「全く新しいこと」にチャ
レンジするのに適した年」と言われ
ます。年が明け今年は昨年のコロナ
に蹂躪された状態から解放され、新
しいことが始まるような希望を感じ
ることが出来ます。川西会の新たな
発展が期待されます。まだ熟慮中
ですが、私も何か新しいことにチャ
レンジしてみたいと思います。

結びに、コロナはまだ油断できま

せん。「予防が最大の防御」を肝に銘じ乗り越えてまいりましょう。皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

年頭のごあいさつ

川西町議会

新年明けましておめでとございます。

昨年来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日常生活に大きな影響をもたらしている中、会員の皆様には健やかに新春を迎えられていることとお慶び申し上げます。

ふるさと山形（川西）は、他の地域と比べると比較的、災害が少ないところと言われてきましたが、一昨年の台風十九号による大雨被害、そして、昨年7月には大雨による被害があり、毎年のように自然災害に見舞われ、会員のご親族にも被害にあわれた方もおられたものと思いが、心よりお見舞いを申し上げます。議会としましては、町当局と共に早急な復旧に向け国・県に支援策を要望し、復旧に取り組んでいます。

さて、会員の皆様との交流・懇談を楽しみに行っていました、春の総会や秋の芋煮会が、このようなコロナ禍の中で止む無く中止となったこ

とは残念でありましたが、今年こそは、コロナが終息し、森田会長様をはじめ、皆様と和気あいあいの中、有意義な時間を過ごせることを楽しみにしております。

結びに、皆様にとりまして素晴らしい年でありますよう心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

「納豆」の話



川西町教育委員会
教育長
小野 庄士
(玉庭)

新年明けましておめでとございます。と申しましても私の家には誰も帰省せず、親類間での宴会も縮小し、寂しいものとなりました。感染症を恨みます。そして、思い出されるのが、様々な昭和の時代の正月行事です。正月二日には、早朝玄関先で声を張り上げ「鳥追いの歌」を鳴り物入りで二回吟じます。「となり」のやろどもねーでてなっともちねじるとも、おーきてとりばえね！」意味深な歌です。

ところで、私は炬燵に亀のように首だけ出して読書するのが好きでしたが、この我家の炬燵布団、なんと

なくネバネバして、納豆くさかったのを思い出します。それもそのはず、祖母は毎年こたつで納豆づくり挑戦しておりました。ワラを二つ折りにして「つと」を作り、その中に煮た大豆を詰め、おまじないのワラを入れて閉じます。それを何十本も作っては、炬燵でねかせるのです。日が経つにつれ、炬燵全体が納豆くさくなります。出来上がったモノはいつもポロポロしておりましたが、高菜を混ぜて食べていました。

今後とも、感染症への警戒が続きます。こんな時は、巣ごもりが一番、亀になって読書をするに限ります。結びに、感染症が収束して皆様・御家族様が健康でご活躍されますことを心からお祈り申し上げます、新年の挨拶とします。

新年のご挨拶



川西町観光協会会長
渡部 順一
(小松)

明けましておめでとございます。会員の皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。又、日頃から多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

泊まつて
食べ
入浴して

まどか
川西町浴浴センター

0238-42-4126
0238-42-4100

http://www.k-madoka.co.jp/

〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松 5095-36

さて、感染症の拡大が日常生活のみならず、リモート〇〇のようにステイホームにより観光産業も大きな影響を受けております。

昨年川西ダリヤ園は感染症対策に万全を期して開園し5万人弱のお客様に楽しんでいただきました。が、不要不急の旅行や外出の規制がいつまで続くのか観光関係者にとっては大問題です。一刻も早い対応と終息を願っています。

令和3年4月から9月までの間、東日本大震災から10年を迎えて東北6県とJR6社による大型の観光キャンペーンが、イベントや体験企画で開催されます。

川西ダリヤ園は開園61周年を迎えます。以前は大型バスで大勢のお客様をお迎えしましたが、今は、行きたい観光ルートを自分で作る着地型観光に変化しています。

川西町には観光資源は多くない現状ですが、現在ある風土・文化・歴史・食べものなど貴重な財産を後世に繋げることが大事だと考えます。観光面での皆様のご支援をお願いし、新年のご挨拶といたします。



年頭のごあいさつ



川西町商工会会長
寒河江 輝文
(吉島)

新年明けましておめでとうでございます。東京川西会々員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は3月下旬ごろから新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止の為様々なイベント等が中止となりました。更には県知事からの要請で飲食業界では4月下旬から5月にかけて、営業自粛要請があり、売上の激減に伴い、飲食店を含めた全ての業種において大変厳しい一年でした。

そんな中毎年交流させていただいている「東京川西会総会」等も残念ながら中止となりました。ご案内のとおり、当町では人口減少や高齢化の広がりによる、消費活動の低迷、コロナ禍も追い打ちとなり町内経済は大変厳しい現状が続いておりますが、「ふるさと川西」を穏やかで活気溢れるまちにと、令和の時代に相応しい活動を行うべく商工会役職員並びに会員一同力を合わせて頑張る所存でございます。

東京川西会々員の皆様のご健勝と、益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。

げ年頭のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ



菅野 和弘
(中郡)

山形おきたま農業協同組合
川西地区代表支店長

新年あけましておめでとうでございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当JA事業各般にわたり、ご理解ご協力を賜わり心から御礼申し上げます。

昨年の冬は、降雪はあったものの晴れや雨の日も多く、積雪が少ない異常な暖冬でありました。3月から6月の気温は比較的高めとなり、特に6月前半は高温となりました。7月は降雨が続く、農産物の生育にも影響があり、枝豆、ネギ等露地野菜、デラウェア等の収量は大幅に減少し、水稲については、根張りが悪く倒伏した水田が多く見られました。幸いに品質、収量とも平年を上回る実績となりました。

コロナ禍で、花卉、米沢牛等の消費量が減少し、価格は前年度と比較し平均で2割程度低下しました。会員の皆様におかれましては、各家庭

農家発!! 愛情たっぷり

杵つきもち

(有)大塚もち加工センター

TEL:0238-42-5159 FAX:0238-42-5336

〒992-0601 山形県東置賜郡川西町大字西大塚1267-7

地元直産

で月に一度は、食卓に花を飾り、米沢牛を食して頂ければ幸いです。

農業を取り巻く環境は、人口減少及び就農者の高齢化と後継者不足等の影響により農家戸数や耕地面積は依然として減少傾向ですが、今後とも、安全・安心な農産物を生産してまいります。

結びになりますが、貴会の益々のご発展と、皆様に幸多き年であります事をご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

ふる里でやすらぎを



やまがた里の暮らし
推進機構理事長

登坂 賢治

(東沢)

新年明けましておめでとうございます。日頃は「川西町」と「里の暮らし」に温かいご支援を賜り、ありがとうございます。私たちは皆様の心のふる里として、豊かな自然と絆を大切にされた事業を展開しています。当機構は町の外郭団体として、交流事業を主体に関係人口や移住定住の推進と、町の魅力を情報発信し川西ファンの拡大を目指しています。昨年10月の「小さなマメテン」には「東京川西会」からも多くの皆様

に応援頂き感謝申し上げます。

現在、今まで体験したことのない行動自粛を求められる生活が続きます。行きたい所に自由に行けない、会えない、対面しての微妙なマスク距離感、すべてがある意味でストレスです。自然の中で農業を営む私まで、このように感じてしまいます。経済や命の危機をなんとなく、いや、実感せずにはいられない状況を強く意識しています。こんな時こそ里山に暮らす我々が、心のやすらぎを届けられる事業と行動をお互いに連携できればと考え、未来に明るい希望を確信しています。

丘の町、林の中にぽつんと一軒小さな我が家、午後木陰に椅子とテーブル、旧知の友人とコーヒー片手のんびり人生を語る。そんな小さなロマンを夢見て、今日も田畑で心地よい汗を流しています。

川西町の最新情報

▼小さなマメテン、オンラインマメテンを開催しました！

毎年12月に台東区上野桜木あたりにて開催される山形かわにし豆の展示会。今年度は新型コロナの影響により、開催時期を早め規模縮小しながら、10月24日・25日にK's Green Galleryにて「小さなマメテ

ン」を開催しました。特産品の通信販売のご案内や川西ならではの食材の販売、加えて移住相談も行いました。コロナ禍であり例年とは違う形式での開催となりましたが、川西会の皆様にも温かな応援を頂き感謝申し上げます。また、ステイホーム中でも楽しめる「オンラインマメテン」では、参加者の皆様に地元の食材や地酒を味わいながら「ばあちゃん茶の間」や「川西の地酒とうまいも

入試制度「川西町・愛知大学連携自治体推薦制度」、給付型奨学金制度「山形県川西町・愛知大学本間喜一奨学金」を設けています。推薦入試制度は、川西町在住または置賜農業高校に在学する高校生を対象に愛知大学地域政策学部への入学を志す学生を町が大学へ推薦する制度です。本間喜一奨学金制度は、東北6県から愛知大学へ入学した学生へ4年間で300万円の奨学金を給付する制度であり、奨学生は現在3名で、大学では地域づくりの担い手としてそれぞれ意欲的に学生生活を送っています。令和3年度も自治体推薦制度、奨学金制度ともに募集を行う予定です。ご家族や親族に対象になる方や興味がある方がいらっしゃいましたら、ぜひ本制度をご紹介いただきたいと思っております。

○お問合せ…町まちづくり課

0238 (42) 6668

やまがた里の暮らし推進機構

0238 (54) 3006

▼川西町と愛知大学

愛知大学創設者の本間喜一氏は、川西町玉庭地区出身であり、その縁から2014年に川西町と愛知大学で連携・協力に関する協定を締結しました。協定締結の翌年から、愛知大学の学生は毎年川西町にてフィールドワークを行い、町の雰囲気を感じ自らの目で町に住み働く人々の術を学びます。また、このような交流のみならず、愛知大学への推薦

○お問合せ…町まちづくり課

0238 (42) 6668

▼ご存知ですか？「空き家バンク」

空き家バンクを担当しています。集落定住支援員の江本と申します。空き家バンクでは、ご登録いただいた活用可能な空き家情報を、町ホームページ上で発信し、空き家利用希望者と所有者との橋渡しを行って

います。

先日ご相談にいらしたのは、東京在住の女性の方でした。

町内にある実家を相続したものの、遠方から通って行く管理も大変。実家を処分したいと考えても、相談する相手もおらず、何から手を付けてよいかもわからないため、夜も眠れないほど不安だったと話されていました。お話を伺っていくうちに、今後の対応について優先順位が整理できたようで、「今日はぐっすり眠れそう！相談してよかった」と笑顔でお帰りになりました。

「何を相談したらよいか分からない」「誰に相談したらよいか分からない」実家を急に相続された方がよく話される言葉です。漠然とした不安に苛まれたまま、日常生活を送っていらつしやる所有者の方が多いのではないかと、私自身感じさせられた言葉でもありました。

ぜひ一度空き家バンクにご相談ください。その場では解決できないことがあっても、解決策と一緒に探すことができます。漠然とした悩みを話すことで、お考えが整理できるかもしれません。お気軽にお問い合わせください。

○お問合せ…町まちづくり課

0238 (42) 6668

空き家利活用のご相談は

川西町空き家バンク まで

町まちづくり課 ☎42-6668

登録物件 53 件のうち

成約 34 件 (令和2年11月末)



川西町を思いだす商品を



株式会社にし森のマルシェ
マネージャー
横山 亜紀

皆様、明けましておめでとございます。

「かわにし森のマルシェ」は二〇一六年に開店した川西町にある直売所です。直売所とはいえ、野菜のみならず手作りのマスク、わら細工、また町内に工場のある三菱鉛筆の商品

も取り扱い、ひとあじ違った直売所となっております。

私自身、東京で長く暮らしており、刺激的でいつも楽しい都会でしたが、たまに実家から荷物が届くと四季折々の食べ物など懐かしくその味を忘れることはありませんでした。幼いころから慣れ親しんだ味は町を離れたも貴重なものだと感じていました。

ご縁がありマルシェの販売を任せていただき夏祭りや、豆の展示会などで皆様にお会いする機会があり、ぜひ懐かしい味などをお届けできればと日々考えておりました。コロナ禍で帰郷もままならない今こそ、楽しんでいただけるように不定期ではありますが「かわにし」のうまいものをお届けできればと思っております。四季折々の野菜や漬物、お餅など故郷の味を味わっていただき、川西町との絆を強く感じていただければと思います。

また、皆様のリクエストにもお応え出来るよう、生産者の方々と協力して商品アイテムを増やしたり開発していきたいと思っております。

川西町にお帰りの際は、是非「かわにし森のマルシェ」にお立ち寄りください。スタッフ一同皆様のご来店をお待ちしております。

ふる里のおみやげに

塩小倉印



〒999-0121山形県東置賜郡川西町上小松 1574
電話0238(42)3044・FAX0238(42)3144

献上 小倉羊羹本舗

<http://www.m.nishikiya.jp>

山形県川西町上小松 1509

TEL 0238-42-2636

錦屋

国の登録有形文化財



新庁舎建設賛助協力金の御礼

前号以降、協力金を頂きました。有難うございます。

金巻萬円也

蓮田市(大塚) 森谷 寅次様

なお、前号のご芳名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。金五千元也

練馬区(小松)

白土 淑子様

川西町議会議長・加藤 俊一様のご逝去について

永年に亘り当会にご支援をいただきました加藤俊一様が、令和2年12月13日に逝去されました。衷心より御冥福をお祈りいたします。

事務局だより

新会員

なし

お悔み

淀 久夫 様 令和2年 4月
中村 茂八 様 令和2年10月
謹んで哀悼の意を表し、お悔み申し上げます。

庶務日誌抄

九月十五日 会報第84号発行

以下の事柄は、コロナウイルスの拡大防止上、中止といたしました。

十月十日 第5回役員会

十月十七日 いも煮会準備

十月十八日 第33回いも煮会

十二月五日 第55回研修会・忘年会

一月六日 東京地区行事 七福神

巡り

編集後記

令和三年の新春、明けましておめでとうございます。皆様、穏やかな新年を迎えられたことと拝察いたします。

今年も期待が高まります。玉庭の我が実家もかつては牧野まで持つて牛の生産に取り組んでいました。小学校から帰ると、2頭の牛を散歩させるのが日課となっていたことが思い出されます。

さて、年末のコロナ感染者は全国で4520人、東京都でも1337人と、いずれも過去最高を記録しました。この号がお手元に届くころには、残念ですが更に危機的な状況になっているのかも知れません。ワクチンの普及が待たれるところです。

三密を避ける、不要不急の外出はしない、飲食店に夜間の営業時間の短縮をお願いします、と感染防止の徹底が叫ばれますが、ハイリスクもローリスクも一緒にして、できることは全てやり

ましようというスタンスには些か疑問があります。物事には何でも急所があるもので、そこを外せば効果が低いばかりか、徒労に終わりがかねない危険があります。最初は協力的な人々も、疲労感の蓄積とともにおざなりな対応に陥ってしまいます。

では、徹底すべき肝とは何か、私はマスク会食の一手に尽きると思いますが、飲み屋さんを覗いてみると、みんな怖い怖いといひながら、このテーブルを囲む人は大丈夫と、全く根拠のない楽観視で若い人がマスクなしで歓談しています。症状の出ない人から症状の出ない人に感染し、家庭に持ち帰って家族に発症者が現れる、職場の昼食のテーブルで拡大する、これが実態ではないでしょうか。医療関係者は、50センチの距離でコロナの患者さんに応対しても感染しません。リスク対策が徹底しているからです。私達も、せめて飲食のときくらいはしっかりと対策をとりたいものです。

連日、日本海側の大雪がテレビで報道され、川西町は大丈夫だろうかと心が痛みます。何年前だったでしょうか、川西町も莫大な除雪の補正予算の計上に迫られ、都市部ではカーポートが軒並み潰されて保険制度の見舞金の対象に追加されるということがありました。住む人のいなくなった古い空き家も増えてきています。落雪や倒壊

に巻き込まれないよう、くれぐれも注意していきましょう。

嫌でもウィズ・コロナの時代です。それは政府の対策ではなくて、一人一人の対策にかかってくるということ。賢明に体力を維持し、ご活躍を。

商品の発送承ります

かわにし集めた『かわいい』

かわにし 森のマルシェ



〒999-0122
山形県東置賜郡川西町大字中小松2534
TEL 0238 (42) 6664 FAX 0238 (42) 6665

東京川西会 会報 No.八十五号
発行「アルカディアの里」東京川西会
発行責任者 会長 森田 光雄
編集人 広報委員長 鈴木 茂
連絡先 事務局長 佐藤 誠
〒240-0015
横浜市保土ヶ谷区岩崎町十八四八
TEL・FAX 045-333-8368